

# 平成29年度「全国体力・運動能力、運動習慣等調査」結果(市の概要)

平成30年3月30日  
鹿児島市教育委員会

## 1 調査の概要

### (1) 調査の目的

- ア 子供の体力等の状況に鑑み、国が全国的な児童生徒の体力の状況を把握・分析することにより、子供の体力・運動能力の向上に係る施策の成果と課題を検証し、その改善を図る。
- イ 各教育委員会、各国公私立学校が全国的な状況との関係において自らの子供の体力の向上に係る施策の成果と課題を把握し、その改善を図るとともに、そのような取組を通じて、子供の体力・運動能力の向上に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。
- ウ 各国公私立学校が各児童生徒の体力・運動能力や運動習慣、生活習慣、食習慣等を把握し、学校における体育・健康等に関する指導などの改善に役立てる。

### (2) 調査の実施学年・実施学校数・実施児童生徒数

学校種	実施学年	実施学校数(校)			実施児童生徒数(人)		
		本市	県	全国	本市	県	全国
小学校	5学年	78	510	19,915	5,477	14,650	1,050,062
中学校	2学年	39	224	10,384	4,836	13,699	1,022,561

本調査は、平成20年度から希望校により開始され、小・中学校の希望校の合計は、初年度72校、21年度83校であった。22年度からは国による抽出校になり22校、23年度は震災のため中止、24年度26校で実施した。25年度から国により全校が対象となった。

### (3) 調査事項

- ア 児童生徒に対する調査
  - (ア) 実技に関する調査
    - 握力、上体起こし、長座体前屈、反復横とび、20mシャトルラン、50m走、立ち幅とび、ソフトボール投げ(小学校)、ハンドボール投げ(中学校)
  - (イ) 質問紙調査
    - 運動習慣、生活習慣等に関する質問紙調査
- イ 学校に対する質問紙調査
  - 児童生徒の体力・運動能力向上に係る取組等に関する質問紙調査

### (4) 調査期間

平成29年4月から7月末までの期間

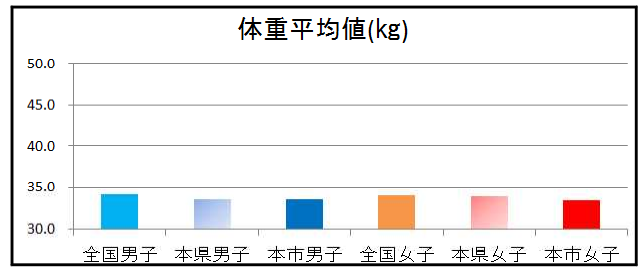
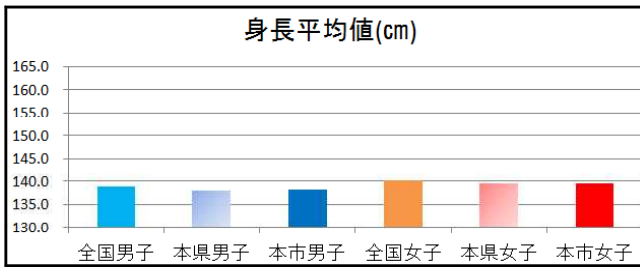
## 2 調査結果の概要(詳細については別添の調査まとめ「別紙1～5」を参照)

- ※ T得点とは「全国平均(50とする)に対する相対的位置」を示す。(T得点=偏差/標準偏差)
- ※ 全国平均等との比較は、以下を基に表現する。

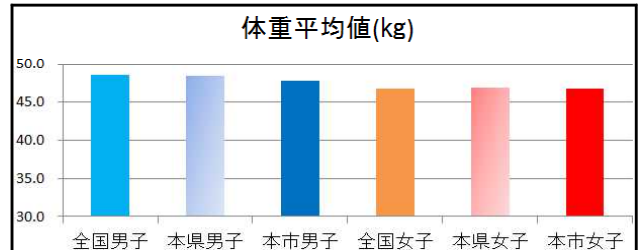
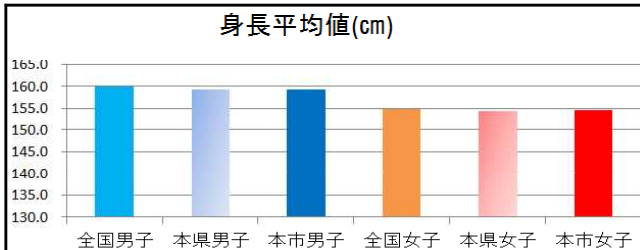
< T得点の場合 >	
47	48
49	50
51	52
53	
低い	高い
< %の場合 >	
±2%以内	…ほぼ同じ
±2.1～5%以内	…やや低い・高い
±5.1%以上	…低い・高い
< 総運動時間の表現について >	
±35分より長(短)い	…長(短)い
±21～±35分未満	…わずかに長(短)い
±21 未満	…ほとんど差がない

(1) 体格について

ア 小学校の状況



イ 中学校の状況

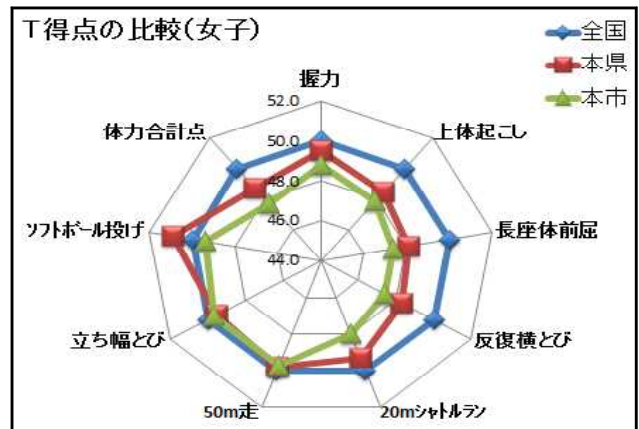
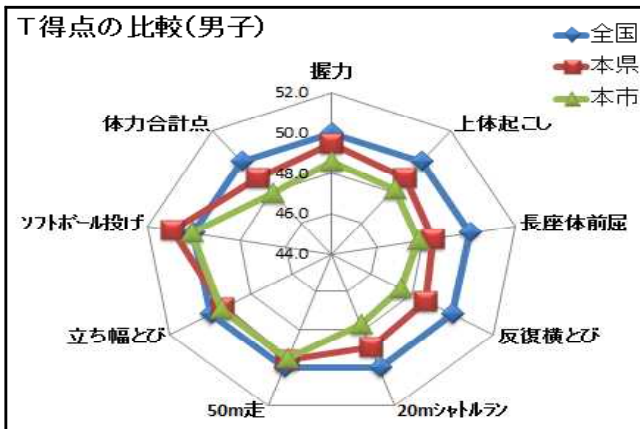


小学生について男子の身長は県平均とほぼ同じであるが、全国平均と比較してやや低い。男子の体重と女子の身長、体重ともに全国平均、県平均とほぼ同じである。  
 中学生の身長、体重は、男女ともに全国平均、県平均とほぼ同じである。 (T得点による比較 別紙1)

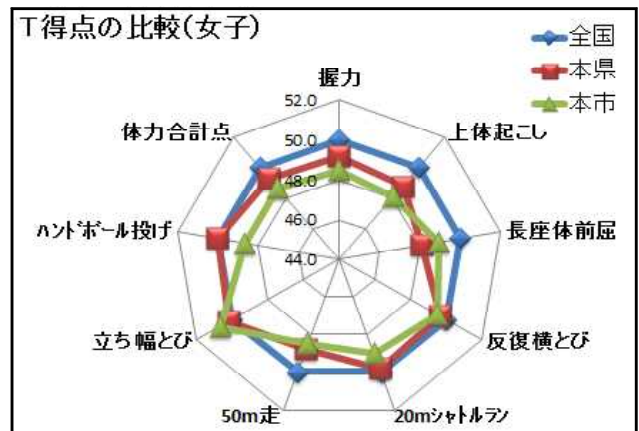
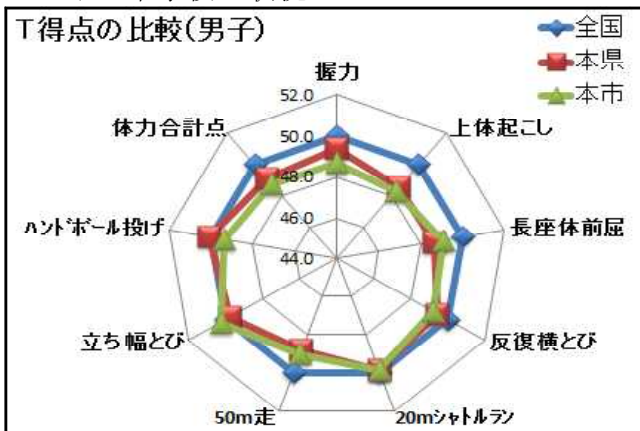
(2) 体力について

※ T得点は「全国平均(50とする)に対する相対的位置」を示す。(T得点=偏差/標準偏差)

ア 小学校の状況



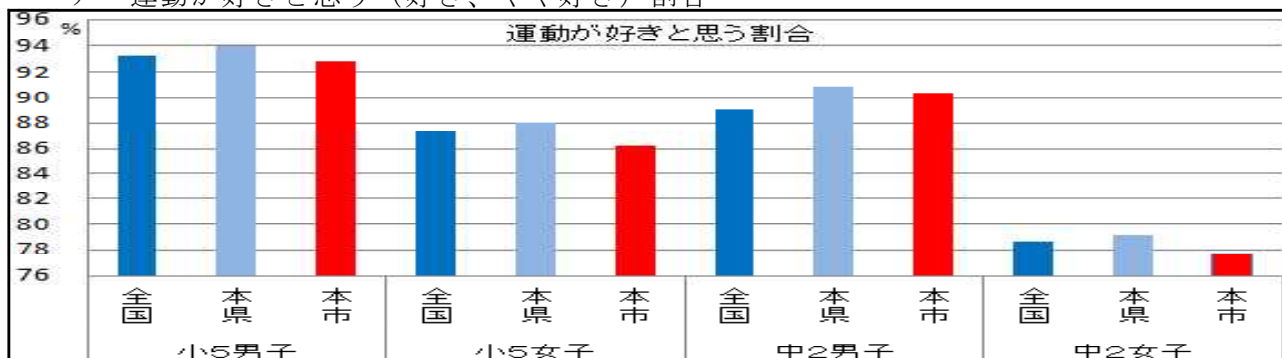
イ 中学校の状況



小学生の体力について、全国平均と比較すると男女の50m走、立ち幅とび、ソフトボール投げがほぼ同じであるものの、男女の長座体前屈と反復横とび、男子の20mシャトルラン、女子の上体起こしが低いことから、体力合計点は男女ともに低い。  
 中学校の体力は、全国平均と比較すると男子は6種目がほぼ同じであるものの握力、上体起こしがやや低いことから体力合計点はやや低い。女子は反復横とび、20mシャトルラン、立ち幅とびがほぼ同じであるが、その他の5種目がやや低いことから、体力合計点はやや低い。 (T得点による比較 別紙1)

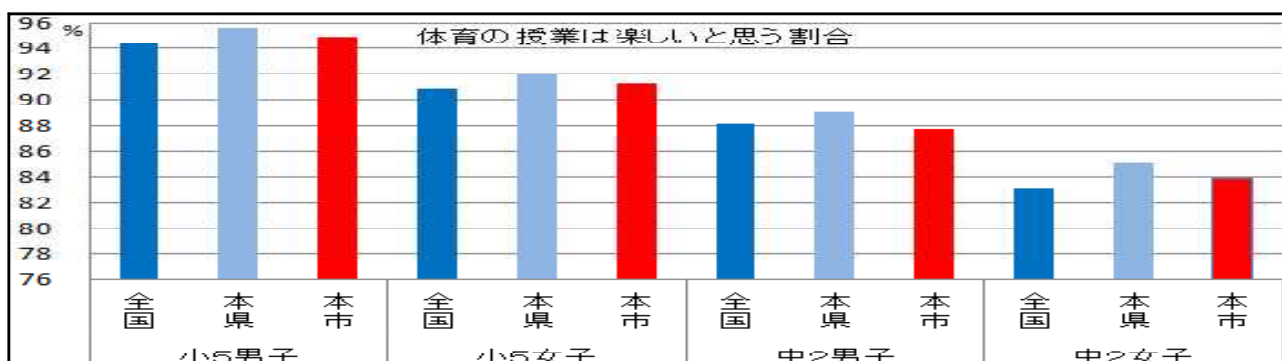
(3) 運動習慣等調査の結果について

ア 運動が好きと思う（好き、やや好き）割合



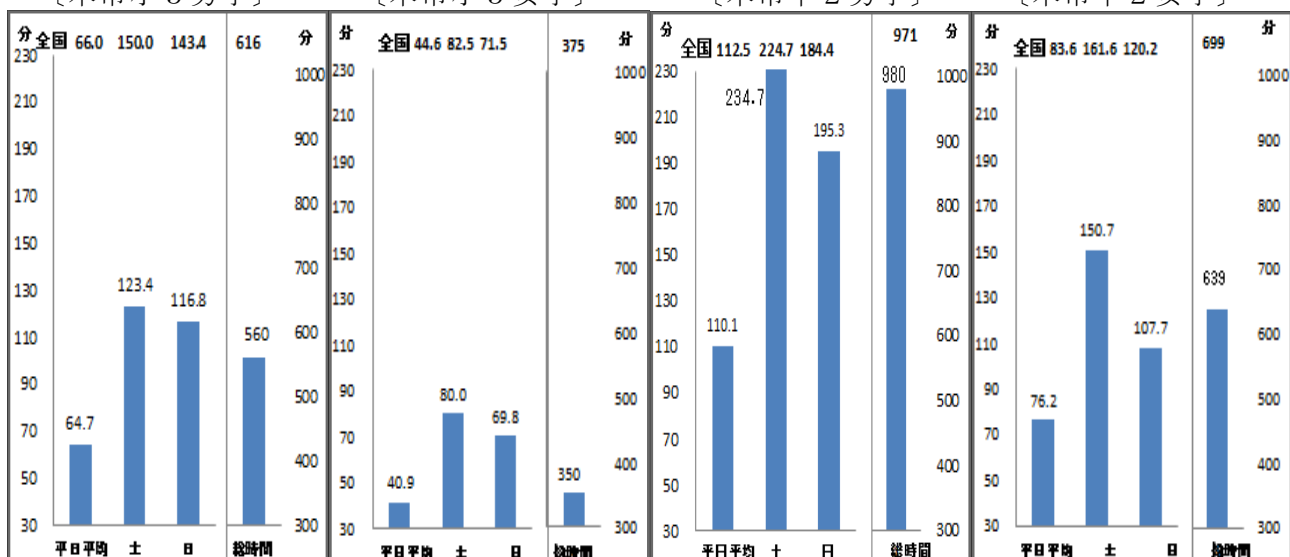
運動やスポーツをすることが「好き」「やや好き」と答えた割合は、小学校男子と中学校男子では約9割であり、小学校女子と中学校女子でも約8割となっている。小学生、中学生ともに全国平均とほぼ同じである。

イ 体育の授業は楽しいと思う（そう思う、ややそう思う）割合



「体育の授業は楽しいか」について「そう思う」「ややそう思う」と答えた割合は、小学生では9割を、中学生では8割を越えており、小学生、中学生ともに全国平均とほぼ同じである。

ウ 運動の実施時間（「体育の授業以外で、運動やスポーツを1日で何分くらいするか」）  
〔本市小5男子〕 〔本市小5女子〕 〔本市中2男子〕 〔本市中2女子〕



「学校の体育の授業以外で、運動（体を動かす遊びを含む）やスポーツを合計で1日何分くらいするか」について、1週間の総運動時間は、全国平均と比較して中学校男子はほぼ同じであり、小学校女子はわずかに短い。また、小学校男子と中学校女子は短い傾向にある。

#### (4) 課題について

体力面について、体力合計点を全国平均と比較すると、中学生はやや低く、小学生は低い。種目別にみると、小学生では男女の50m走、立ち幅とび、ソフトボール投げが全国平均とほぼ同じであるが、男女の長座体前屈、反復横とび、20mシャトルランはT得点48以下で課題である。中学生では男子の握力、上体起こし以外の6種目、女子の反復横とび、20mシャトルラン、立ち幅とびが全国平均とほぼ同じであるが、男女ともに握力、上体起こし、加えて女子は長座体前屈、50m走、ハンドボール投げがT得点49以下で課題である。

運動習慣等について、体育の授業以外における運動の実施時間は、全国平均と比較して中学校男子はほぼ同じであるが、小学校女子はわずかに短く、小学校男子と中学校女子は短い傾向である。また、「運動やスポーツをすることが好き」や「体育の授業が楽しい」とする割合は、全国平均とほぼ同じ傾向である。

### 3 今後の対策等

#### (1) 学校における取組

ア 市の傾向として、小学生では「柔軟性」「敏捷性」「全身持久力」が、中学生では「筋力・筋持久力」が重点課題であることを基に、各学校においては自校の実態把握による課題の明確化と課題の改善に対する方策の具体化を図る。

イ 各学校においては、自校の課題となる種目に応じた「ちょトレ」（ちょっとしたトレーニング）運動への取組を設定し、継続した取組によりバランスのとれた体力の向上を図る。

ウ 体育授業では、運動の特性や技能の系統を踏まえた学習過程の工夫を図り、特に生徒同士が学び合う活動の充実を図り、「教えて、考えさせる」魅力ある授業づくりに努めることで、運動好きな児童生徒を育成し、個々の運動機会の増加を図る。

エ 児童生徒一人一人の課題を基にした「個人カルテ」の作成と積極的な活用を通して、児童生徒が主体的・継続的に運動を実践できる教師の働きかけと見届けを推進する。

オ 運動を取り入れた生活習慣の定着を図るために、生活リズムや望ましい食習慣、睡眠などに関連させて、教育活動全体で指導していく。

#### (2) 家庭との連携

ア 家庭における運動機会の増加が体力に関係することから、児童生徒の体力の状況や課題等を把握できるよう本調査結果等について家庭との共有に努め、併せて土曜日や日曜日の戸外等での遊びや親子等での運動への取組を推奨する。

イ 体力や健康は生活習慣と深く関連することから、生活リズムや食習慣などの改善について啓発を図る。

#### (3) その他

ア 各学校において、小学校5年生と中学校2年生の新体力テストの実施を継続し、体力に関する実態の把握、課題解決に向けた方策の具体化と継続した実践の推進を図る。

イ 各学校における、課題に関連する運動の選定による「一校一運動」や、「チャレンジかごしま」への積極的な取組への推奨により、運動に取り組む時間の増加を図る。

ウ 「体力向上」研究協力校(荒田小学校、皇徳寺中学校)における実践内容や研究成果等の、市内小中学校による自校化、体育実技研修会への積極的な参加、体育授業への講師招聘等を通して指導力の向上を図る。